

(図中の口上文)

大和屋はひとのこゝろをなくさむる  
おふ立もの種としてよろつのわさ  
をきの氏神ともあかめみとせ  
あと都にのほりしより思ひ  
いたせさるはなし花になく  
鶯三ツ扇をひく江都の水に  
さける杜若はぬしか見かとのみ  
おもわれ

たちわかれないなれしころは  
みとせあと

まつもひさしき

やまとやの君

五柳亭徳升